

見学会（横浜山手の家・東急建設技術研究所）に参加して

＊平成22年11月19日 （社）千葉県建築士事務所協会 事業委員会主催

八千代支部 下橋祐次

1. 横浜山手の家

最初の見学地である「横浜山手の家」は、日本が近代国家を目指していた明治時代の最先端の洋風建築といえる。見学した幾棟かも、いずれも維持管理状態がよく気持ちよく見学ができた。



外交官の家
(玄関前)

「外交官の家」は明治43年、東京の南平台に建てられたアメリカヴィクトリア様式の建物を、平成9年にイタリア山庭園内に移築された元外交官の住宅である。当時の木造建築の施工技術の素晴らしさが、至る所にみられる。内装材はムクノ木材や漆喰塗りで仕上げられていて、落ち着いた雰囲気を醸し出している。ただ冷暖房や衛生設備関係は、現在の住宅の便利さには、適わないのではと思った。外観は外壁の縁取りの付け柱の縁取りが、全体をしき締めていて、知的な感じを与えている。国の重要文化財に指定されている。



外交官の家
(庭からの外観)

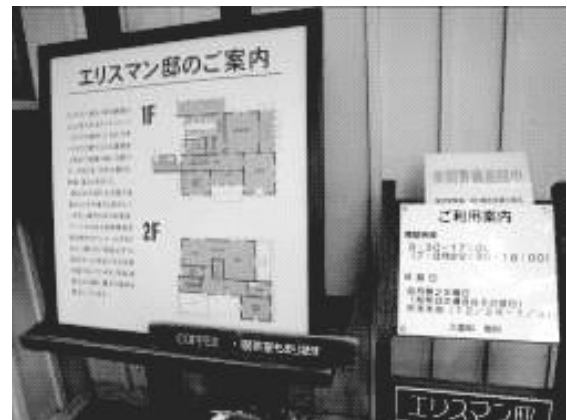
「エリスマン邸」はレーモンドの設計により大正15年、山手127番地に建てられた貿易商エリスマンの私邸である。平成2年に現在の元町公園内にされて、現在は「横浜市認定歴史的建造物」に指定されている。

その外に「ブラフ18番館」「山手234番館」などを見学した。いずれの建築物も落ち着いたデザインであり、しっかりした造りで、当時の活躍した人々の心意気を感じることが出来た。



エリスマン邸
(玄関と庭からの外観)

見学していて気が付いたのだが、それぞれの地番は必ずしも順に隣り合っていないのである。建設順に地番を付けていったという。横浜市が山手西洋館として整備する際、分かり易い地番整理を計画したが、歴史的な地番であるからと、あえてそのままとした。この決定は大変に賢明なことであると思った。



案内説明をしてくれたガイドさん達は、「NP0法人横浜シティガイド協会」の人達で、詳しく丁寧に案内してくれた。時間があればもっとゆっくりと見学をして行きたかった。横浜シティガイド協会のガイドブックによると、見学コースは幾つかが（大きく5コース）あり、今回我々が見て回ったのは、「山手・ロマンの道」であった。

2. 東急建設技術研究所

次の見学地は、横浜から北上すること約1時間半、相模原市にある「東急建設技術研究所」である。ここは、建設関係のいろいろな分野での技術開発を行っている研究所である。そのうちの数か所の実験施設を見せてもらった。



その中で特に興味を持ったのは、音響関係の「音響実験施設」である。音楽ホールの最適な音響を決めるために、1/10の模型を造り実験を繰り返している。座席や観客の模型も正確を期するため、実物と同じ吸音性の材質で作っていて、この模型でのシュミレーションの結果を設計・施工に生かしているという。



次の120m²程の、音が全く響かない「無響室」では、シーンと静まり返った広い野原に、ぽつんと立っているような感じだった。不気味で異様な雰囲気である。天井と壁は、大きな積み木を交互に隙間を開けて、タテ・ヨコに組み合わせたような仕上げで、すべての音を吸収してしまう。床はピアノ線のネットが張っており、そこを歩く。コンクリートスラブとの間に吸音材が張っており、音が反響しないようになっている。このような実験室は初めてで、大変興味深く見た。我々の日常の身の回りは、いかにいろいろな音が反響し騒々しいかが、この実験室で良く分かった。



その外、人工気象室・外断熱の家などを係りの人の案内で見学した。いずれも大変参考になり、勉強になった。

見学会を主催した事業委員会のみなさん、ご苦労様でした。有意義な一日となりました。

以上